



認知症家族の会
さくらの会
 かわら版 令和7年1月号



次回予告

日時 2月5日(水)
 13:30~15:30

場所 須崎市総合保健福祉センター
 2階会議室1・2

内容

講話 『認知症の症状とその対応について~VR体験を通じて~』

講師 看護師・介護支援専門員 山本満壽子 様

カフェタイム

認知症の方の目線を体験することができます

事務局:須崎市役所 長寿介護課 ☎0889-42-1205



さくらカフェ

令和6年12月10日(火) さくらカフェを浦ノ内公民館で行いました。
 住民、会員の方、職員を含めて総勢20名での開催でした。

「認知症を知って笑顔のケアを」
 元グループホーム管理者 市原武さんからの講話

認知症ケアの基本

- 共感 (話を聞いてあげる)
- 否定しない (正しいか正しくないかで考えない)
- 先に折れる (自分が正しくても先に折れる)

認知症の方の対応を事例を用いて解説

事例: 施設でお風呂に入りがらない男性

理由

なれていないところでのお風呂は入りたくない
 帰って家のお風呂に入りたいんだ・いつもの入浴時間がじゃない

ケアのコツ

いつものお風呂の時間を聞き、その時間は入浴を促す
 その方が好きな物を用意し、違った場所でもまあ入ろうかと思えるようなお風呂時間にする
 「はいってくれれば私が助かる」などの声掛けで貢献、自分がお風呂に入ることが役に立つという意識をもってもらう

まずは理由を聞いてその人にあった介護をしていくことが大事です。



同じことの繰り返す方への対処方法について裏面に記載しています。

さくらカフェやさくらの会が出た悩みに対する対処法を載せています。

今回は、グループホーム新荘の里 田辺さんから

「同じことを繰り返す方への対処法について」助言をいただきました。

Q

何度説明しても同じことを繰り返します。
伴侶を亡くし、ご飯は炊かなくていいと伝えますが、
夫婦二人分3合のご飯を毎回炊いてしまいます。



A

当事者も伴侶をなくし、さぞ心細いことでしょう。

また、そのような姿を見て、支えておられる周囲の方々のご苦労にも頭が下がる思いです。

伴侶が亡くなっていると分かっているにもかかわらず寂しかったり、伴侶を思い込んでお米を多く炊かれるのか、以前からの習慣だからか、認知症で亡くなっていることを分からず炊いてしまわれるのかと、理由を聞き出し対象者に合わせて対処が必要だと思います。

どの理由においても試してみると良いと思う工夫を一つ、書かせていただきたいと

メモ書きや張り紙などの活用

①
1回に炊くのは
1.5合です😊

②
お米は2日に
1回炊く

③
赤丸の日は
ご飯を炊く日

炊飯器の近くや、目がつく所へ①のように、炊く量を書いておく

どうしても3合炊いてしまうのであれば二日に一回炊く②という工夫

今日が何月何日と分かるデジタル時計、カレンダーも使って、日付に印をつけてメモへ③のように書いてみるのも良いです

メモ書きへ書く内容は人それぞれの困りごとに合わせて、お米を多く炊いてしまう以外の事柄に対応できます

メモ書き・張り紙はアイディアの一つです。

人それぞれの症状や、生活習慣によって通じたり通じなかったりします。

自分達だけでかかえこまず、周囲の人々、市役所の方々にお話ししてアイディアをもらったり、助け合い支え合う事が重要です。



須崎市内のグループホーム

シルバーホーム	おおの郷	多ノ郷甲 1136-2	0889-40-0560
グループホーム	ぬっく須崎	妙見町 11-6	0889-43-0510
グループホーム	すさき	多ノ郷甲 5741	0889-43-1181
グループホーム	やまざくらの里	安和中ノ川内 693	0889-40-0333
グループホーム	新荘の里	下分甲 606-3	0889-43-0101

グループホームの入所のことや、認知症のことなど、いつでもお気軽にご相談ください。

